

平成 2 1 年度 第 1 回 芦屋市地域包括支援センター運営協議会 会議録

日 時	平成 2 1 年 5 月 2 9 日 (金) 13 : 30 ~ 16 : 30		
会 場	市役所分庁舎 2 階 中会議室		
出席者	<p>会 長 長田 貴 委 員 宮崎 睦雄・羽田 稔郎・川島 知榮子・上田 利重子・小林 正美 高橋 順子・中條 智子・塩川 吉美・安宅 桂子・磯森 健二</p> <p>地域包括支援センター 芦屋市東山手地域包括支援センター 岡本 仲充 芦屋市西山手地域包括支援センター 末澤 靖教・杉島 美也子 芦屋市精道地域包括支援センター 鷓飼 雅浩・吉田 三幸 田中 裕美 芦屋市潮見地域包括支援センター 三原 満代 芦屋市基幹型地域包括支援センター 針山 大輔</p> <p>事務局 保健福祉部高年福祉課 安達 昌宏・寺本 慎児・木野 隆・細井 洋海・山田 弥生 明石 典子</p>		
会議の公表	公 開	非公開	部分公開
	< 非公開・部分公開とした場合の理由 >		
傍聴者数	1 人		

1 議題

- (1) 平成 2 0 年度芦屋市地域包括支援センター運営事業報告
- (2) 平成 2 1 年度芦屋市地域包括支援センター活動計画について
- (3) その他

2 資料

- 資料1 平成 2 0 年度芦屋市高齢者生活支援センター活動状況報告
- 資料1-2 平成 2 0 年度芦屋市基幹型地域包括支援センター活動状況報告
- 資料2 平成 2 0 年度高齢者生活支援センターの活動目標と成果
- 資料3 平成 2 1 年度の活動計画 (西山手)
- 資料4 平成 2 1 年度の活動計画 (東山手)
- 資料5 平成 2 1 年度の活動計画 (精道)
- 資料6 平成 2 1 年度の活動計画 (打出)
- 資料7 平成 2 1 年度の活動計画 (潮見)
- 資料8 平成 2 1 年度の活動計画 (浜風)
- 資料9 平成 2 1 年度の活動計画 (基幹型)
- 資料10-1 平成 2 0 年度地域包括支援センター運営事業委託料の精算書 (西山手)
- 資料10-2 平成 2 0 年度地域包括支援センター運営事業委託料の精算書 (東山手)
- 資料10-3 平成 2 0 年度地域包括支援センター運営事業委託料の精算書 (精道)
- 当日資料1 平成 2 0 年度地域包括支援センター運営事業委託料の精算書 (潮見)

3 審査（議）内容

上記の議題について事務局より報告，説明し，委員に意見聴取する。

開 会

(1) 平成20年度芦屋市地域包括支援センター運営事業報告

(事務局 細井) 資料1,1-2について説明。

(小林委員) 確認ですが，数字のとり方について，例えばAというケースを相談でカウントするのか虐待でカウントするのか，あるいは高齢者以外の相談でカウントするのか各支援センターで全くなじようなカウントにはならないでしょうが，ある程度標準化されているのかどうかをお聞きしたいことと，介護予防プラン件数が出ていますが，全体で「要支援」の認定を受けた方が地区別に何人いるか分りますか。できれば要支援の対象者数とプラン作成者数が何人と示されれば，活動の具体化をしやすいと思います。また虐待の事例について，毎年増加していますが，ほぼ実人員ととらえて良いのですね。

(事務局 細井) 月報のカウントの標準化ですが，毎年月報の学習会を開催していますが，やはり各支援センターに乖離があるのは事実です。しかし，3年間の活動を経て課題が見える月報に変化してきたのではないかと考えています。例えば権利擁護支援や介護予防プランの増加により本来業務に十分関われないこと，また特定高齢者の開発が不十分であることなどです。今後は，どこのだれを経由して相談が入ってくるのかが分ることが課題です。また介護予防プランの作成数が地区別に分ること，活動計画を立てやすくなると思いますので，また何らかの形でお示ししたいと思います。それから，虐待件数が年々増えています。このうちの1/3は地域の事業所のケアマネジャーから上がってきています。残りの60件は家族や本人の訴えと地域包括支援センターの職員が発見しています。件数としての多い・少ないの評価は難しいですが，視点が育ってきていると感じています。それが地域でも虐待事例を発見したり重篤化を予防したりするネットワークにつながると思います。

(長田会長) 20年度単年の事業報告なのですが，地域包括支援センターが設置されてから3年を経過していますので，推移が分るような報告になると良いと思います。そうすることで見通しを立てられるからです。また，項目の中で「ケアマネジャーからの相談」も上がってきていますが，それぞれの支援センターがこの相談件数を想定しているより多いのか少ないのか，そのようなところを現場で確認して活用して欲しいと思います。

(各地域包括支援センター) 資料2,資料10-1~10-3,当日資料1について説明。

(羽田委員) 東山手の精算書ですが，職員健康管理費の計上が0円となっていることが気になります。それから郵便料も0円になっています。これについて説明をお願いします。

(東山手 岡本) ご説明いたします。職員の健康管理費ですが，法人の診療所で健康診断を行っていますので，郵便料とも合わせて法人の予算で見えています。

(事務局 安達) 補足いたします。職員の健康管理費ですが，年に1回の事務調査の際に職員の健康診断を行っていることの確認はとれています。地域包括支援センターの予算としては，0円となっていますが，法人として予算化しています。また郵便料ですけれども，これは資料の中の通信費として一括で計上されてい

るとご理解ください。決算の区分けが違いますが、郵便料も含まれていることを確認できています。

(小林委員) どちらの支援センターも支出が収入を上回っていることから本部会計からの繰り入れ等をおこなっており、事業所として全体としてみると委託料に対するの消耗品費などの細かいカウントは取れないと思いますのでどのように整理するかを示さないと、事業に対して委託料が正当ではないと判断されてしまいますので、整理された方が良いと思います。

(事務局 寺本) 対象経費、対象外経費という考え方があると思いますので、そのように整理していきたいと思います。

(小林委員) 資料2の「活動の成果」ですが、非常に前向きに表現されていると思います。また資料1の地域ケアネットワーク構築業務の活動報告がありますが、それとこの成果に表わされている民生委員との交流会や事業所との交流会等が資料1にも書かれていれば、もっと分かりやすいと思います。

(長田会長) 成果をどのように表わすかですが、例えば西山手の活動内容に「機関紹介シート」の作成がありますが、それは目標を達成するためのプロセスであると思います。また事例検討会の開催ができたとありますが、それも目標達成の手法と考えられるので、成果をどのように表わすかというところは、検討会の開催やシートの作成が終了ではなく、段階的なプロセスの中でのクリアしたのものとして、最終的な目標達成に対する成果をどう表わすかについて、整理していく必要があると思います。

(2) 平成21年度芦屋市地域包括支援センター活動計画について

(各地域包括支援センター) 資料3~9について説明。

(高橋委員) 基幹型の活動計画について「あり方検討会」とありますが、具体的な活動内容について説明をお願いします。

(基幹型 針山) 昨年の12月に設置しまして、現在までに2回開催しております。1回目は、現状の支援センターの動向についてデータをもとに、地区の高齢化率や認定者率や認知症高齢者数などの客観的な数値から、課題抽出を行いました。第2回目は、さらに課題を分析するために必要な調査があるのであれば、それはどのようなものかについて意見交換をしました。今年度は、前回の意見交換をもとにして、アンケート調査を資料9に示していますようにできれば6月中に実施したいと思っています。それをもとに検討会を重ねて、報告書を作成する予定です。

(塩川委員) 民生委員とケアマネジャーとの交流会ですが、昨年実施していただいた支援センターは今年度も実施していただけるのでしょうか？

(精道 田中) 民生委員との交流は現在考えておりませんが、ケアマネジメント部会やネットワーク部会、小地域ブロック連絡会を合同で開催しようと企画しておりますので、それが交流会になると思います。

(潮見 三原) ケアマネジャーと民生委員との交流会の企画は考えていませんが、事例検討会で、民生委員やケアマネジャーに参加をお願いしていますので、それが交流の場になると思います。

(東山手 岡本) 年に1度だけではなく、小地域ブロック連絡会にもケアマネジャーに出席してもらえるように考えています。

- (小林委員) 基幹型の計画ですが、多領域の相談機関の連携について、どのようなイメージをお持ちですか？具体的な構想があればお願いします。
- (基幹型 針山) 研修会を入りにしながら、つながりのきっかけを作りたいと思っています。専門職が集まって、顔と名前が一致する関係性をまずは作っていきたいです。できればメーリングリストを作れたらと思っています。例えば自分の機関で受けた相談内容について、対応ができないとなった場合にどこかで受けてもらうことができますかという投げかけが、メーリングリストを通じてできればと考えています。それが活性化につながらないかと考えています。
- (小林委員) 多領域の相談機関の連携を図るネットワークづくりは、非常に良い取り組みだと思います。しかし、基幹型は1名が精道のセンター長となられた中で、非常に新規の取り組みが多いですね。また22年度に向けて福祉センターの開設に向けて、その中に設置される権利擁護支援センターとの役割や機能について、地域包括支援センターの業務に掲げられている権利擁護業務との整合性をどうとっていくのか等、22年度の7月に向けて、それらを整理することが先決ではないかと思えますし、そろそろ方向性を行政とともに見据えていかないといけないと思えます。
- (磯森委員) 福祉センターについては、保健福祉部内で協議しているところです。当初は22年度の4月開設の予定でしたが、周辺の住民との説明会も経て、7月開設の予定となっており、現在工事にも入っています。また今年度4月に福祉センター担当課長を配置しましたので、課長を中心に進めています。具体的な中身については、もう少しお待ちいただけたらと思います。
- (宮崎委員) パイロットスタディということで、塩川委員が言われたように良いと思われた事業は、どんどん実施していけば良いと思います。また支援センターには3職種の方がおられますよね。これを見せていただいたら、1名だけではなく、各職種で2名ずつくらいの配置が必要であると思います。そうすることで、円滑な業務の引き継ぎが可能になると思います。複数配置ができるように、市側としても資金の調達も検討していただけたらと思います。
- (上田委員) 職員がバーンアウトしないように、各支援センターがどのような取り組みを考えておられるかを教えていただけたらと思います。
- (西山手 杉島) 各スタッフ間のコミュニケーションをとることが大切であると思っていますので、公私を問わず、できるだけ話し合える機会を持つようにしています。
- (東山手 岡本) スタッフ間でコミュニケーションをとるようにしています。オンオフの切り替えも大切だと思いますので、業務時間内にも、仕事のことだけではなく、いろいろな話をしてコミュニケーションを深めるようにしています。
- (精道 吉田) 全センターにおいてもバーンアウトした職員が出ています。当センターに置き換え、原因として考えられるのは、業務量が多いという以外に、やはり先が見えないことへの不安であるとか、また法人内でどのくらい支援センターの理解がなされているのかについて、どの職員も不安に感じていたと思います。今年度は、センター長として先が少しでも見えるように目標設定すること。また出来ていることと出来ていないことについて明確にし、職員間で共有すること。そしてスーパービジョン機能を承認してもらえるような環境設定が必要であると思います。ケースの話を経験談として捉えてしまわれないように、ケアスーパービジョンの環境を整備していくことが必要だと思

っています。

- (基幹型 針山) あり方検討会を立ち上げることに目的にバーンアウトしないことも入っていましたので、具体的な内容としては、各センター間で職種ごとのコミュニケーションがとれる設定を設けるようにしていることです。横のつながりをもてるようにしています。
- (潮見 三原) 当センターにおいても、2 職種の職員の不在期間中に、地域住民の方にご迷惑おかけしないように、センター長という立場で少しでも職員が疲弊しないように進めてきました。業務量の多さだけでなく、抱え込みをなくするためにスーパービジョン機能の役割を果たすセンター長の配置が必要であると思っています。同時に仕組み作りも必要であると思っています。潮見は、3 月に 3 職種を新たに配置することができました。職員がバーンアウトしないようセンター長の配置が必要ですし、21 年度は、保健師の複数配置を希望して行政に予算案を提案しています。
- (長田会長) 複数配置については、事務局としてはどのように考えていますか。潮見の地域性の部分と芦屋市全体を踏まえ、地域包括支援センター全体の問題にかかってきますね。
- (事務局 寺本) 宮崎委員からもご提案がありましたが、予算については、芦屋市のサービスの総給付費の 3% 内でしか、予算措置できないという縛りがあります。原則、3 職種でお願いしてきましたので、今回の複数配置については、なぜ保健師でないといけないのか、潮見の地域性としてどうなのかなど潮見と協議中です。
- (事務局 細井) 20 年度の精算について、2 職種が不在であった期間と精算をどのように整合させるのか、また不在であった職種が社会福祉士と主任ケアマネであった事実に対して、充当させる職種が保健師であることの根拠について理由書として提出していただくよう求めています。それが明確にならないことには 4 人配置を承認することにはならないです。もう少し協議できる時間が欲しいと思います。次回の本協議会でご説明させていただけたらと思います。
- (川島委員) 潮見の「認知症になっても安心して暮らせるまち」の目標について具体的な活動内容を教えてください。
- (潮見 三原) 地域の中で、認知症の方の早期発見のためにポスターを作成しました。2 年目は、認知症の方を発見して、次はどこにつなげば良いのかを学びました。3 年目は、見守り支援や予防活動について検討中です。また地域の方々と協働事業化を考えています。
- (長田会長) 今後、福祉センターの構想の中で、地域包括支援センターがどのように発展していけば良いのかを協議していくこととなります。また本日の議案については、承認ということで良いでしょうか。良ければ、本協議会は終了いたします。ありがとうございました。

閉 会